

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

Best Available Copy,
Best Available Copy

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 07177550 A

(43) Date of publication of application: 14.07.95

(51) Int. Cl.

H04Q 7/14

H04Q 7/16

(21) Application number: 05319622

(22) Date of filing: 20.12.93

(71) Applicant: CASIO COMPUT CO LTD

(72) Inventor: TAKAHASHI HIROSHI
HORI TSUTOMU

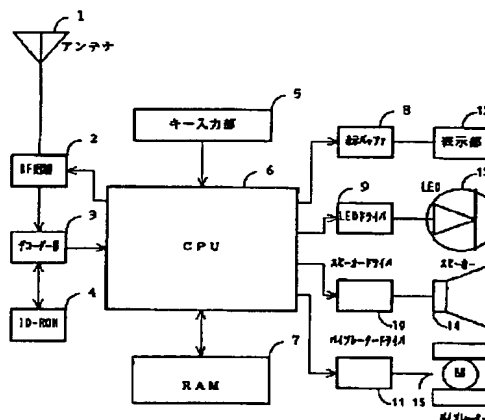
(54) RECEIVER

(57) Abstract:

PURPOSE: To allow the possessor of the receiver to recognize urgency or importance or the like of received message data by allowing the receiver to select a reception notice method based on specific character code data and selecting and informing the selected reception notice method when the specific character code data are included in the received message data.

CONSTITUTION: An RF reception section 2 and a decoder section 3 apply reception processing to a received signal and a CPU 6 implements notice control according to the received data. When data for notice designation are included in the received data, a message is extracted by the received data through a call of processing by the data, and when specific character code data stored in advance are included in the message, the notice method is controlled by a call of processing by a set notice method and when not included, the notice method is controlled by a call of usual processing to report the reception.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO



5-98039-TM

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-177550

(43)公開日 平成7年(1995)7月14日

(51)Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 Q 7/14 7/16		7605-5K 7605-5K	H 0 4 B 7/ 26	1 0 3 E 1 0 3 L

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平5-319622

(22)出願日 平成5年(1993)12月20日

(71)出願人 000001443
カシオ計算機株式会社
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

(72)発明者 高 橋 央
東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

(72)発明者 堀 務
東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

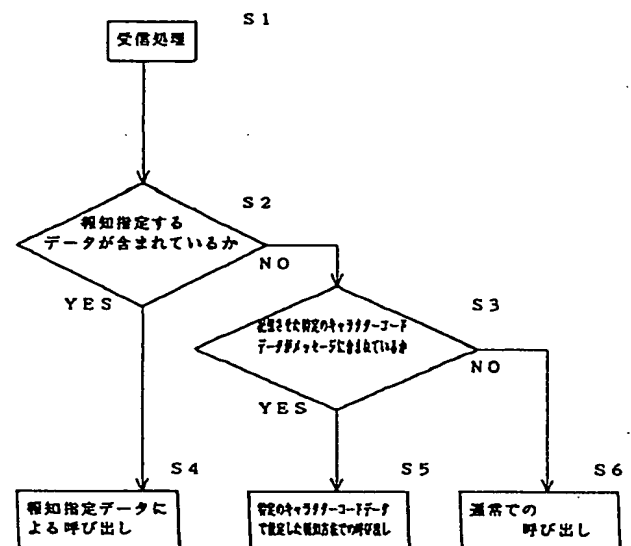
(54)【発明の名称】 受信装置

(57)【要約】

【目的】 特定のキャラクターコードデータで受信報知方法を選択でき、受信したメッセージデータに特定したキャラクターコードデータが含まれていると、選択された受信報知方法を選択し報知する。したがって所有者は、受信されたメッセージデータの緩急度又は重要度等を理解することができる。

【構成】 送信された信号をRF受信部2、デコーダ部3が受信処理し、CPU6が受信データに従い報知制御する。(ステップS1)

受信データに報知指定するデータが含まれていれば、前記データによる呼び出しで、受信データによりメッセージが抽出され、予め記憶させた特定のキャラクターコードデータが前記メッセージに含まれていれば、設定した報知方法による呼び出しで、含んでいなければ通常呼び出しで報知方法を制御し、受信報知する。(ステップS2～S6)



(2)

特開平 7-177550-

2

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 呼び出しと共に受信データが送られてきた時は、前記受信データを表示する表示手段を備えたデータ受信機能付き受信装置において、前記受信データに基づいた表示に含まれる特定のキャラクターコードデータを検出する検出手段と、前記検出手段により検出された前記特定のキャラクターコードデータと対応した報知方法を選択する選択手段とを備えている事を特徴とする受信装置。

【請求項 2】 現在時刻を計時する計時手段と、呼び出し信号を受信する受信手段と、複数の報知手段とを備えた受信装置において、複数のスケジュールデータを記憶する記憶手段と、前記記憶手段によって記憶された個々のスケジュールデータに含まれる特定のキャラクターコードデータを検出する検出手段と、前記受信手段が呼び出し信号を受信した際に、前記記憶手段の当該受信時刻に対応したスケジュールデータより、前記検出手段が検出した検出結果に基づいて、前記報知手段を制御する制御手段とを備えている事を特徴とする受信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、報知選択機能を備えた受信装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来のページャー等の受信装置の受信時における報知制御は、スケジュールや使用目的、又は所有者のおかれている状況に応じて、予め受信装置本体の複数の鳴音機能もしくは振動機能から、最も適切な報知方法で報知制御するよう設定するか、所有者又はサービス会社によって指定された報知手段指定コードを、送信者が送信するメッセージ内容に応じて指定するか二種類があり、これにより報知を受ける所有者は、自己のおかれている状況に応じて、送信者の判別もしくはメッセージ内容の要旨、重要性等の判断をしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の受信装置におけるこのような報知手段は、報知方法によってそれぞれ一長一短があり、例えば振動機能であれば、アラーム音が発生しては困る場所では報知効果が高いが、移動時、とりわけ所有者本人が携帯していなかった場合は効果が低いように、所有者本人のスケジュールに対し、いつも高い報知効果が得られるとは限らなかった。したがって、所有者は鳴音機能もしくは振動機能を設定する際、行動内容ごとに設定しなすなければならなかった。

【0004】 更に送信者が報知手段を選択する場合、受信装置は指定コードで選択された報知方法で報知する為に、例えば所有者が鳴音機能が作動しては困るような状

況で無音モードにセットしても、送信者側で緊急呼び出し機能を指定したために強制的に鳴音機能が作動する等、所有者本人のスケジュールにかかわらず、送信者側のみで送信メッセージの重要性を判断し報知させる事があった。

【0005】 この様にサービスの一般化に伴う受信装置の利用者の増加は、携帯用を含めた受信装置における報知機能を、個人利用者の生活環境を考慮した為に多用途にし、その結果多用途に富むものにしたが、報知手段の有効性を高めなければならない受信装置そのものの用途上の特徴が、必ずしも利用者の生活環境により密着し、融通性の高い報知手段にしているとは限らなかった。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、呼び出しと共に受信データが送られてきた時は、前記受信データを表示する表示手段を備えたデータ受信機能付き受信装置において、前記受信データに基づいた表示に含まれる特定のキャラクターコードデータを検出する検出手段と、前記検出手段により検出された前記特定のキャラクターコードデータと対応した報知方法を選択する選択手段を備えている事を特徴としている。

【0007】 又本発明は、現在時刻を計時する計時手段と、呼び出し信号を受信する受信手段と、複数の報知手段とを備えた受信装置において、複数のスケジュールデータを記憶する記憶手段と、前記記憶手段によって記憶された個々のスケジュールデータに含まれる特定のキャラクターコードデータを検出する検出手段と、前記受信手段が呼び出し信号を受信した際に、前記記憶手段の当該受信時刻に対応したスケジュールデータより、前記検出手段が検出した検出結果に基づいて、前記報知手段を制御する制御手段とを備えている事を特徴としている。

【0008】

【作用】 本発明によれば、当該受信装置はメッセージデータを受信した際、前記メッセージデータに特定のキャラクターコードデータが含まれていると、前記特定のキャラクターコードデータで受信報知方法を選択し、選択された受信報知方法で報知する。この作用により当該受信装置の所有者は、受信されたメッセージデータの緩急度又は重要度等を理解することができる。

【0009】 又本発明によれば、当該受信装置は、呼び出しがあった際現在時刻を計時する計時機能とスケジュール機能とキャラクターコードデータで、設定した時刻内における受信報知方法を選択するので、設定したスケジュールに含まれるキャラクターコードデータと対応した受信報知を受けることができる。この作用により当該受信装置の所有者は自己のスケジュールに沿った受信報知を受けることができる。

【0010】

【実施例】 以下第 1 の実施例として、本発明を利用したページャーが外部より個別呼び出し信号を受信した場合

3

について図面、図1～図4に従って詳述する。図1は、本発明を利用したページャー本体内部の回路構成を示す。各回路部の中核に位置しているCPU6は各回路部を制御する制御部である。RF受信部2はアンテナ1で受信された電波を復調する回路部である。

【0011】ID-ROM4は、当該ページャーに個別的に割り当てられるフレームやアドレス等を記憶し、デコーダー部3の制御部の下に記憶しているフレームやアドレス等をデコーダー部3に送出する。

【0012】デコーダー部3は、RF受信部2で復調された受信信号を上記ID-ROM4からのデータと照合し、その受信信号が自己に対して送られてきたものであるときには一致した信号をCPU6に送る。

【0013】キー入力部5は、文字数字キー、ファンクションキー等からなるキーボード部分と、各種スイッチ部分で構成されており、キーボード部分については、ある入力となされるとCPU6で処理され液晶パネルを駆動させる回路を含む表示バッファ8を通して液晶パネルを備えた表示部12にメッセージとして表示されるだけでなく、RAM7に記憶させることができる。又、各種スイッチ部分は呼び出しを受信したときに呼び出し音を発生する鳴音モードと呼び出し音を発生しない無音モードとの間でモードの切り替えを行うモード切り替えスイッチ、呼び出し音の発生等を停止させる時に操作するリセットスイッチ等で構成されている。

【0014】RAM7は過去の受信メッセージ情報と、報知方法を制御するキャラクターコードデータ、メッセージメモリーデータ等を記憶する記憶部であり、図2は第1の実施例におけるRAM7のレジスタ構成概略図である。

【0015】表示バッファ8は液晶パネル等の表示装置をCPU6からの制御信号で駆動させる回路を含む回路部であり、表示部12は液晶パネル等を備えた表示板である。LEDドライバ9は、CPU6からの制御信号を受けてLED13を駆動させる駆動部であり、LED13はLEDドライバ9に駆動されて点滅あるいは点灯し受信報知を行うLEDである。

【0016】スピーカードライバ10は、CPU6からの制御信号を受けてスピーカ14を駆動させる駆動部であり、スピーカ14はスピーカードライバ10に駆動されて呼び出し音を発生させるスピーカである。

【0017】バイブレータードライバ11は、CPU6からの制御信号を受けてバイブレータ15を駆動させる駆動部であり、バイブレータ15はバイブレータードライバ11に駆動されて振動する振動部である。尚、表示部12はドット表示であれば漢字による表示も可能である。

【0018】図3は、第1の実施例のフローチャートである。送信者より公衆電話回線を通して送信された信号はステップS1において、アンテナ1で受信され、RF

(3)

特開平7-177550

4

受信部2で復調される。復調された上記受信信号はデコーダー部において上記受信信号が自己に対して送られてきたものであるときには一致した信号をCPU6に送る。

【0019】CPU6はステップS2で、受信データに報知指定するデータが含まれているか否かをチェックし、前記データを含んでいれば、ステップS4の報知指定データによる呼び出しで、含んでいなければ更にステップS3へ進み、呼び出し方法を選択する。

【0020】更にステップS3において、受信データがメッセージを含むか、もしくは予めRAM7のメッセージメモリーエリア等に蓄えられ、受信データの特定のコードによりメッセージが抽出された場合、CPU6は予めRAM7で記憶させた特定のキャラクターコードデータが、前記メッセージに含まれているか否かをチェックし、前記メッセージの中に前記特定のキャラクターコードデータが含まれていれば、ステップS5において前記特定のキャラクターコードデータで設定した報知方法による呼び出しで、含んでいなければステップS6において通常呼び出しで報知方法を制御し、当該ページャーが受信報知する。

【0021】尚、第1の実施例におけるキャラクターコードデータと対応させた報知制御を設定した場合、その具体的な報知制御は次の様になされる。

【0022】例えば図2において、キャラクターコード『スグ』のデータに対応させて、予め鳴音『メロディー1』による報知制御を設定しておく、図4に示されるように『スグコイ』、あるいは『イマスグニ、イケ』といったメッセージデータを表示した時、メッセージデータ中の『スグ』のデータをCPU6が検出し、RAM7に記憶させた鳴音『メロディー1』で報知するように制御する。

【0023】以上の操作により、本発明を利用した当該ページャーは、受信者に対し送信者が送信したメッセージ内容の緩急度又は重要度を、設定された報知制御で理解することができる。

【0024】次に第2の実施例として、外部より個別呼び出し信号を受信し、スケジュール内容に鑑みて報知機能が作動するページャーについて図面、図5～図6に従って詳述する。

【0025】第2の実施例のページャー本体内部の回路構成は、第1の実施例における図1とほぼ同様なので説明は省略する。第1の実施例との主な相違点は、図5のRAM7のレジスタ構成概略図に示される様に、第1の実施例におけるRAM7に、設定時刻とスケジュール内容等を対応させて記憶する記憶部が追加されていることである。

【0026】図6は、第2の実施例のフローチャートである。送信者より公衆電話回線を通して送信された信号はステップS7において、アンテナ1で受信され、RF

(4)

特開平7-177550

5

受信部2で復調される。復調された上記受信信号はデコーダー部において上記受信信号が自己に対して送られてきたものであるときには一致した信号をCPU6に送る。

【0027】ステップS8で、スケジュール機能を持つ当該ページャーは、事前にCPU6による現在時刻を計時する計時機能が作動しているものとする。

【0028】当該ページャーが受信した月日時刻に対し、所有者がキャラクターコードデータでスケジュール内容を設定していなければ、ステップS9で次のステップS12の通常呼び出しへ、事前に前記方法でスケジュール内容を設定してあれば、更にCPU6は次のステップS10で報知方法を制御する。

【0029】RAM7にスケジュール内容が記憶され、設定された月日時刻に、受信月日時刻が刻まれ、尚かつ、スケジュール内容と対応した報知制御が設定されていれば、ステップS11において設定された報知機能による呼び出しで、含んでいなければステップS12において通常呼び出しで当該ページャーが受信報知する。

【0030】以上の操作により、本発明を利用した当該ページャーは、受信者のスケジュールに対応した報知制御を設定できる。

【0031】尚、第2の実施例におけるキャラクターコードデータと対応させた報知制御を設定した場合、その具体的な報知制御は次の様になされる。

【0032】例えば図5で示される様に、予め当該ページャーに『会議』のデータの検出による振動機能での報知制御を設定し、スケジュール機能を用いて午後一時から三時までの間、キャラクターコードで『部門会議』とスケジュール内容を入力すると、午後一時から三時までの間当該ページャーが外部から信号を受信した際、現在時刻計時機能とスケジュール機能が働き、CPU6がスケジュール記憶部内のキャラクターコードデータ『部門会議』の内、『会議』のデータを検出し、振動機能で報知するように制御する。

【0033】尚、第2の実施例における報知制御は、受信時においてCPU6がスケジュール内容におけるキャラクターコードデータを検出し、その検出結果に基づいて報知制御を行うが、予めスケジュール内容を設定する時点において、キャラクターコードデータに基づいた報知方法を選択するようにしても良い。

【0034】又、本実施例におけるキャラクターコードデータによる報知制御、及びスケジュールは当該ページャー所有者が設定することになっているが、サービス会社によって予め設定されていても良い。

【0035】更に本実施例における報知制御手段は、鳴

6

音機能の切り替えだけでなく、キャラクターコードデータと一対一で対応させた、鳴音の音量強弱も設定することが可能であり、振動機能、点滅機能も同様に強弱を設定することが可能である。

【0036】又、本発明における報知手段は、鳴音機能の切り替えだけでなく、各種メロディーの報知選択も同様に可能である。

【0037】

【発明の効果】本発明によれば、メッセージデータを受信した際、前記メッセージデータに特定のキャラクターコードデータが含まれていると、当該受信装置は前記特定のキャラクターコードデータで受信報知方法を選択し、選択された受信報知方法で報知する。この作用により当該受信装置の所有者は、受信されたメッセージデータの緩急度又は重要度等を理解することができる。

【0038】又本発明によれば、呼び出しがあった際、現在時刻を計時する計時機能とスケジュール機能とキャラクターコードデータで、設定した時刻内における受信報知方法を選択するので、設定したスケジュールに含まれるキャラクターコードデータと対応した受信報知を受けることができる。この作用により当該受信装置の所有者は自己のスケジュールに沿った受信報知を受けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を利用したページャー本体内部の回路構成図。

【図2】第1の実施例におけるRAM7のレジスタ構成概略図。

【図3】第1の実施例のフローチャート。

【図4】第1の実施例における具体例。

【図5】第2の実施例におけるRAM7のレジスタ構成概略図。

【図6】第2の実施例のフローチャート。

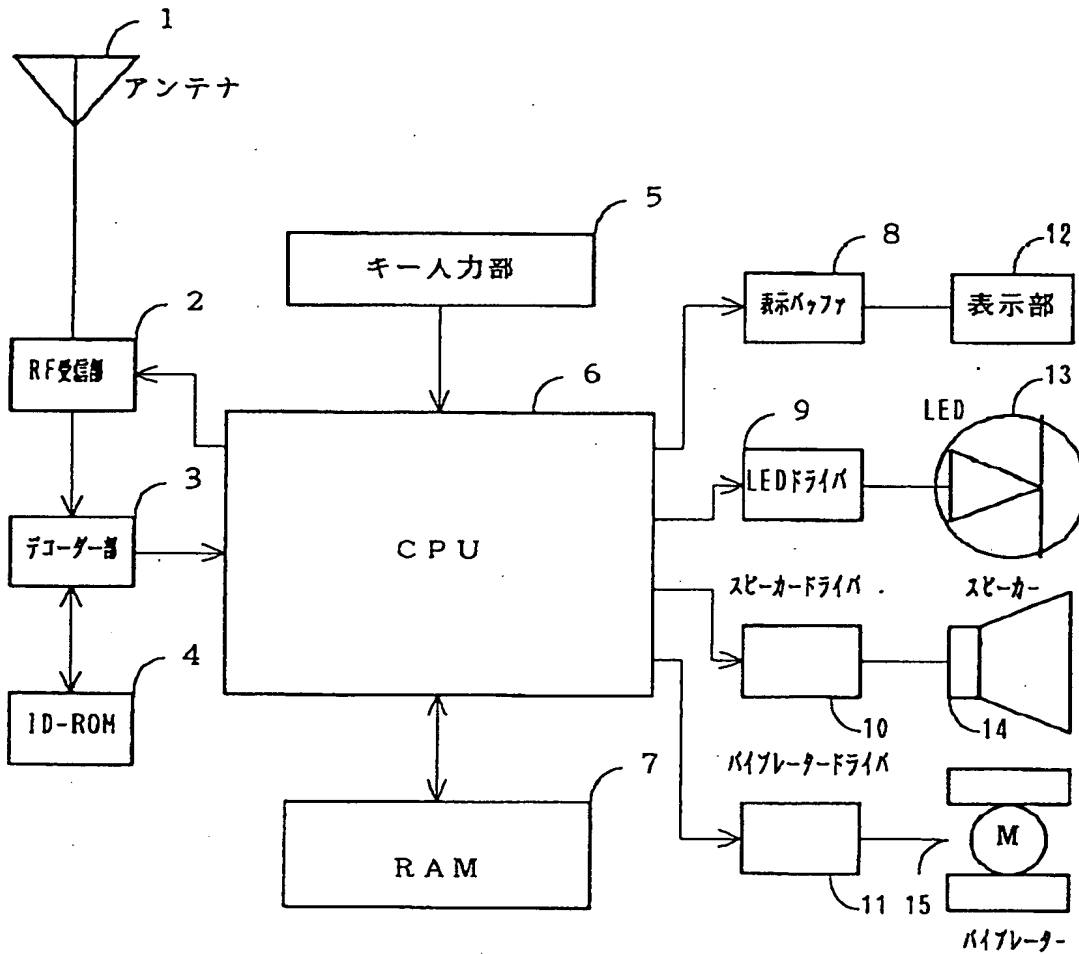
【符号の説明】

- 1 アンテナ
- 2 RF受信部
- 3 デコーダー部
- 4 ID-ROM
- 5 キー入力部
- 6 CPU
- 7 RAM
- 12 表示部
- 13 LED
- 14 スピーカー
- 15 バイブレーター

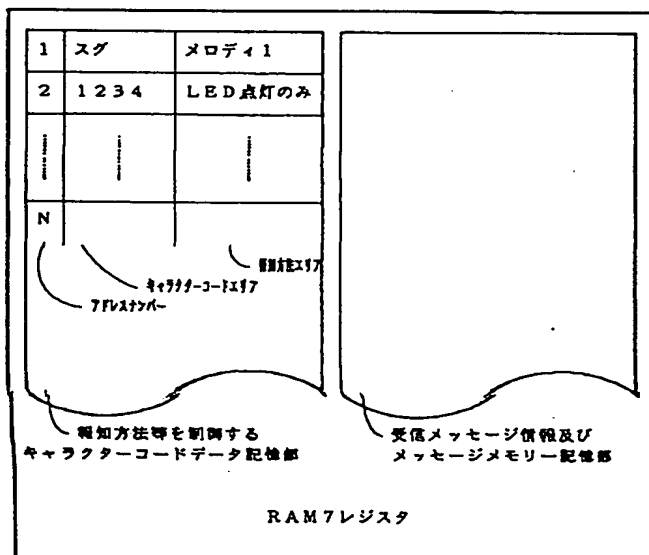
(5)

特開平 7-177550

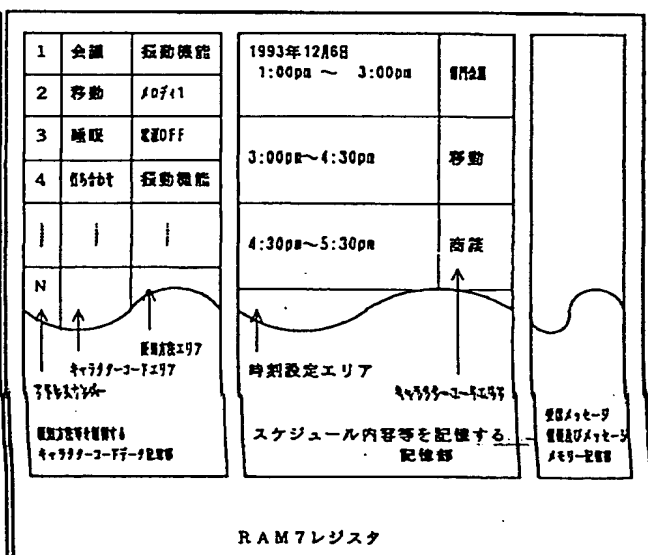
【図1】



【図2】



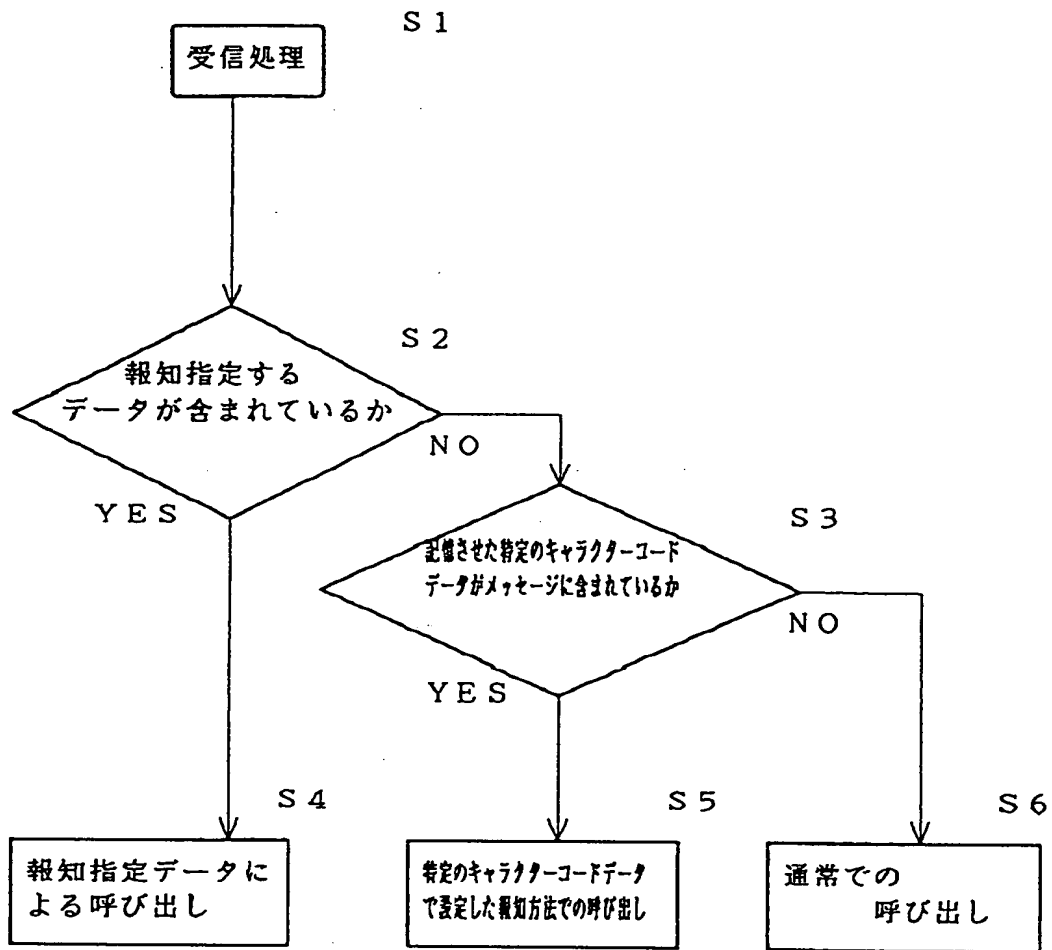
【図3】



(6)

特開平7-177550

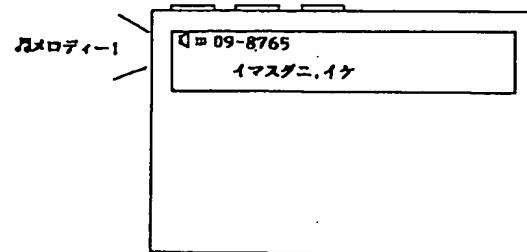
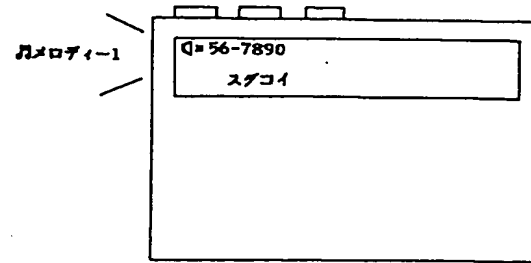
【図3】



(7)

特開平7-177550

【図4】



(8)

特開平7-177550

【図6】

